

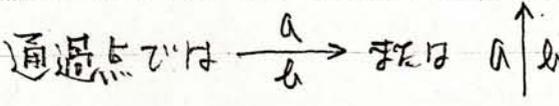
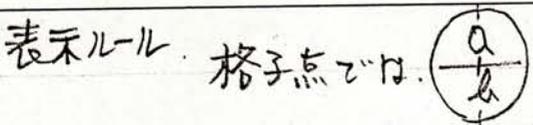
一方通行路の通過人数について

※ SからGに向けて→または↑に従って進むとします。

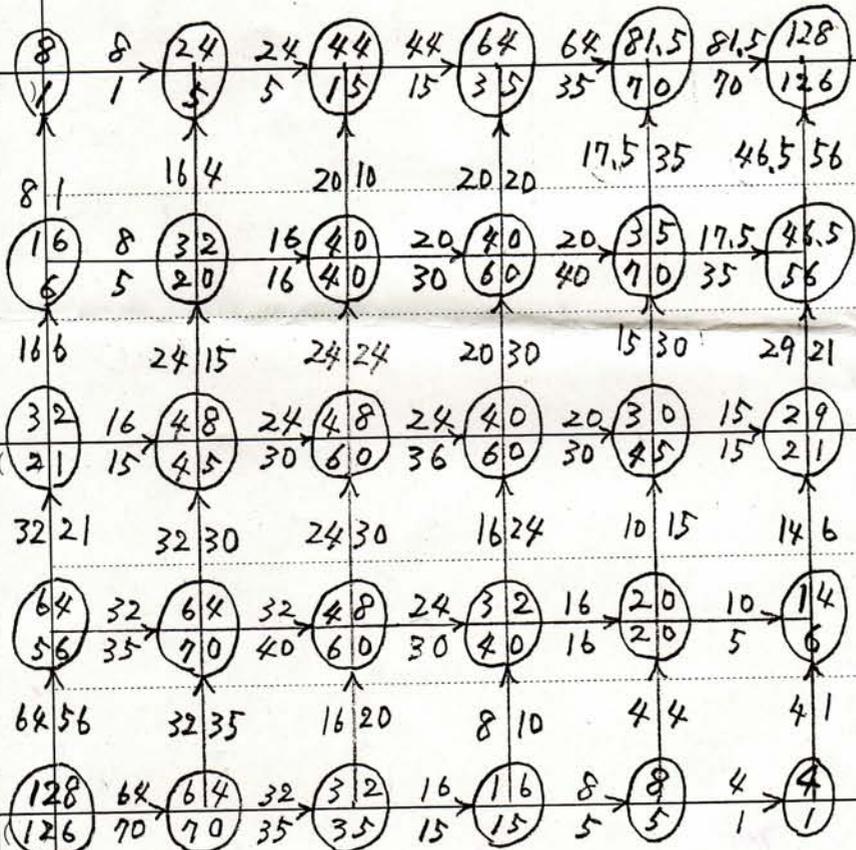
A: 128人が分岐点で均等に分かれて進む場合※

B: 126人が異なる道筋を通って進む場合。

Q式は特等入か
どんなコースでGに至るか
なにか考察の材料とは
なにか、没個性



G



S ※ a, b 両方式とも S ~ G の対角線上近くで、通過人数が多い

a の方が b より 比較的分散傾向にある。

※ ゴールGか (見えていないとき a) とわかるか? (見えているとき b)

() A方式の128人は 分岐点毎に運命が分かれる。もとより「特定の1人がどのコースをたどるか」という観点そのものが用意されている。128人は全て没個性で、「分岐点毎に半分は右へ、半分は上に進むこと」だけが決まっている。

() 従って、126通りの5,11,5,7かの道筋が「誰と歩きとあせなり」という事が起こるだろう。しかし、全ての格子点、通過点を、表の人数が通りすぎる事だけは確実である。

() B方式の126人は 126本の異なる道筋の系に従って、進めかよ、どの2人も「全行程道ずれ」になることばなり。

126本の系を はじめに選ぶ段階で自分のコースが決定している。(126通りの運命が、スタート地点で決定されている。)

() としておいたろう。

人生の113113な場面でのA方式的、B方式的その他、様々な選択の場面がみまふと思われは。

筆者の勝手なコメント!

() ※ここで126は、 $9C_4$ の値で、SからGへの全ての道筋の数である。

A方式を128人としたのは、 2^m のうちで126に近い値を選ば、通過人数の比較がしやすくなるからです。